

学習者用端末活用

ガイドブック

一歩ずつ、楽しく。

このガイドブックには、各学校のフェーズ（ICTの活用進行段階）
に合わせたICT活用アイデアを掲載しています。

次ページ以降の二次元コードを読み込み、ぜひ実際に試してみてください。



スタートフェーズ

校務で活用!



フェーズ 1

毎日アクセス!



出欠連絡はデジタルで



ミマモルメを活用して
連絡をスムーズに

職員会議をペーパーレス化



会議資料は Teams™ や
Google Classroom™ に

会議資料をクラウド共有



共同編集で役割分担や校閲
など自由自在

研究協議はデジタル付箋で



デジタル付箋やペン機能で
協議を焦点化

健康観察は「心の天気」



自分の心や体と
向き合うきっかけに

CHECK!

朝学習はデジタルドリル



自主学習の習慣化に

すきま時間にタイピング練習



小学生で 40 字 / 分
中学生で 60 字 / 分

連絡帳をデジタル化



欠席者への連絡も
みんなと一緒に

フェーズ診断 | 下記の質問に答えてあなたの（学校の）フェーズを確認してみましょう！

\ Start /

YES >> NO <<

毎日「心の天気」の入力を
チェックしていますか？

学習の振り返りやまとめ
に学習者用端末を使っ
ていますか？

考えを発表するときに
学習者用端末を使っ
ていますか？

会議資料をペーパーレス
化し、クラウド共有して
いますか？

デジタルドリルやタイピ
ング練習に取り組む機会
を設けていますか？

学習者用端末を使った
家庭学習を取り入れて
いますか？

フェーズ
2

フェーズ
3

スタートフェーズ

フェーズ 1

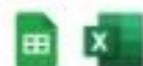
フェーズ 2



1日1回授業で使う!



- 導入は振り返りシートから



クラウド環境で
みんなの気づきを共有



- 見通しを動画教材で



動画をヒントに
問題解決の見通しを



- 自分の考えをスライドに



スライドをデジタル
ワークシートとして



- 話し合いはホワイトボードで



共同編集機能で
話し合いが充実



- 振り返りはフォームへ



オンラインアンケートで
焦点化した振り返りを



フェーズ 3



高い頻度で日常活用!



- リアルタイムに友だちの
考えを確認



回答を瞬時に共有



- コメント機能で意見交換



コメント機能で対話
を促進



- デジタル教材を子どもに共有



デジタル教科書の
コンテンツを有効活用



- ニーズに応じて、言語に翻訳



個別最適に多言語翻訳



- 「話す」学習を自動採点



AI 採点を活用し、
発音を詳細添削



- 生成 AI のアイデアを活用



最先端のテクノロジー
を活用



1人の100歩より、100人の1歩!!

どんな取組でも、それが「当たり前なこと」として定着し、その効果が実感できるようになるまでには時間がかかります。得意な人たちががんばるだけでは、取組が継続しなかったり、負担感だけが増加してしまったりすることがほとんどです。

ICTはデジタル学習基盤として、あらゆる教育活動に不可欠なものです。子どもたちの育成に関わるすべての教職員が「自分事」として取組を進められるよう、全員で力を合わせて着実に1歩ずつ前に進んでいきましょう。

スタートフェーズ 

校務で 活用

～校務から授業へ～

「教師の学びと子どもたちの学びは相似形である」と言われます。会議資料のペーパーレス化、共同編集など、校務での活用が働き方改革につながることはもちろん、日常的にICT活用の機会を多くすることで、授業での活用イメージが湧いてきます。

資料のクラウド共有や、デジタルホワイトボードの活用など、日々の校務においても、積極的にICT活用を推進してください！



教師の学びと子どもの
学びは相似形です！

出欠連絡はデジタルで

欠席連絡アプリ「ミマモルメ」を使うと、保護者と学校の情報共有がスムーズです。保護者からは欠席・遅刻連絡だけでなく、子どもの配慮事項を担当の先生に伝えたり、学校からはお知らせや注意事項、アンケート調査、休業時の健康観察など、幅広く活用できます。

▶ ミマモルメを活用して、連絡をスムーズに

STEP 1 ミマモルメを起動し、確認

毎日の欠席・遅刻の連絡以外にも、「今日の体育見学します。」「昨日、お腹を痛がっていたので、様子を見てください」などの連絡もアプリで学校に届くので、確認、共有が簡単。



欠席連絡が即時にできて便利♪
電話が繋がらないストレスもない♪

15分ほど遅れて登校します。よろしくお願ひします。			
寝坊	-	母	
気（理由...	発熱（体温...	父	発熱のため...

STEP 2 プールカードの代わりに

プール水泳時の入水確認や見学の連絡もアプリで。「カードを忘れたためプールに入れない」といった状況がなくなります。

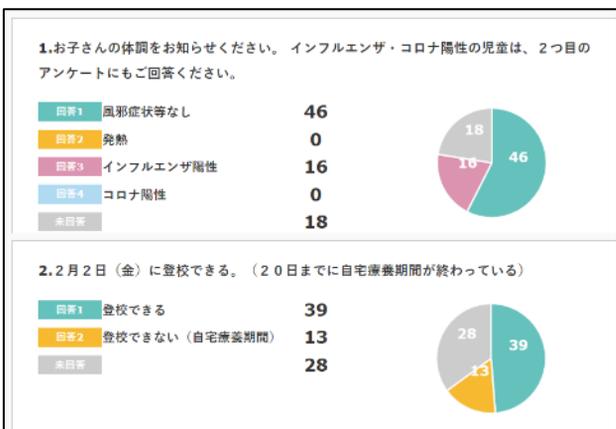
母	プール見学	2023/07/13 ...
母	プール見学	2023/07/13 ...
母	体温36.6...	2023/07/13 ...

STEP 3 お知らせやアンケート調査も

学校からのお知らせや保護者アンケート、休業時の児童の健康観察など、保護者への連絡を一括で管理。



アンケートの回収率アップや集計の効率化、教員の業務のスリム化につながります。

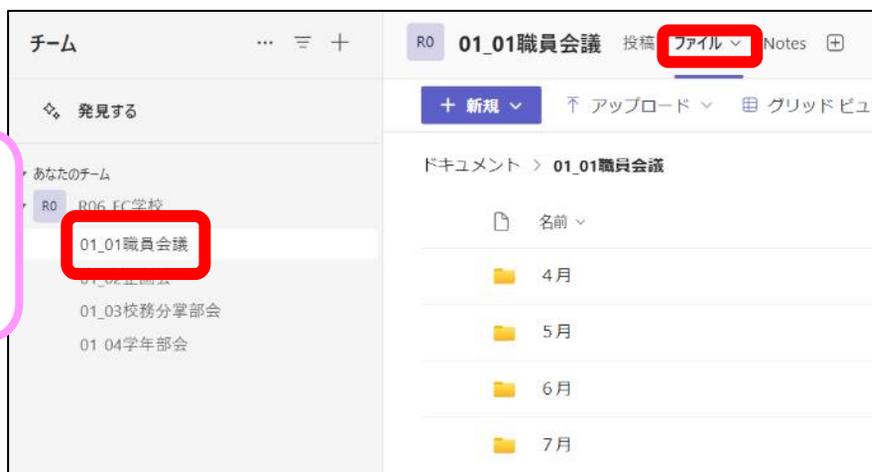


職員会議をペーパーレス化

児童生徒の個人情報や成績等、秘匿性の高い内容は校務系ネットワーク、それ以外は学習系ネットワーク、と適切に保存・管理しましょう。会議資料を端末上で閲覧することを日常化することで、印刷業務も少なくなり、紙やインク代などの経費も削減できます。

会議資料はTeamsやGoogle Classroomに

STEP 1 データは教職員チームに保存



Point

校務分掌ごとにチャンネルを作成すると便利です。

STEP 2 データを開くときは「ブラウザー」を選択



会議資料をクラウド共有

会議資料は、Wordやドキュメント等、データのままTeamsやClassroomのフォルダに保存。クラウド上で共有されるので、役割分担や校閲など、教職員全員が同時に書き込みながら会議を進めることができます。「校閲」機能等を活用し業務効率を上げましょう。

共同編集で役割分担や校閲など自由自在

STEP 1 Wordの「校閲」→「変更履歴の記録」をON

保存は自動で上書きされます。また、いつでも修正前に戻せます。

STEP 2 コメント機能を使って、共同編集者にメッセージを送信

「変更履歴の記録」
→「すべてのユーザー」

「変更履歴の記録」
→「すべてのユーザー」

変更箇所が色付きで記録。
変更した人によって異なる色に。

コメントを見てほしい人の
名前の前に@をつけて、
気づきやすく。

コメントを見てほしい人の
名前の前に@をつけて、
気づきやすく。

STEP 3 「変更を承諾」し、編集を終了



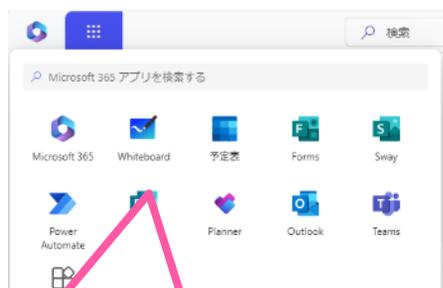
研究協議はデジタル付箋で

研究協議では、スライドやデジタルホワイトボードを活用しましょう。他のグループの様子を随時確認できたり、協議会後にゆっくり閲覧できたりするので、様々な意見の集約につながります。デジタル付箋やペン機能を併用することで、議論も焦点化しやすくなります。

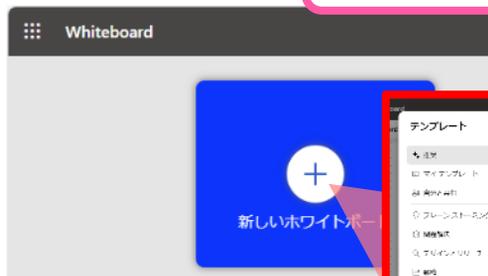
デジタル付箋やペン機能で協議を焦点化

STEP 1 M365からWhiteboardを選択

テンプレートを選択



Whiteboardを選択



STEP 2 デジタル付箋で意見交流

- ・付箋に入力して貼り付け
- ・内容ごとに色分けすることで視覚的にもわかりやすくなります!

例: 赤⇒よかった点
黄⇒質問
青⇒改善点



- ・ 時短を意識して、スライドのレイアウトはシンプルに
- ・ 他の班の協議の内容もリアルタイムに確認可能
- ・ コメント機能を活用した議事録や、議論の焦点化も

【コラム】「情報モラル」

情報モラルは日々の授業だけでなく、朝の会や帰りの会などちょっとした時間にも繰り返し指導していくことが大切です。共同編集やコメントの投稿でトラブルが起きた際には、是非子どもたちと一緒に情報モラルについて考える機会にしてください。

作品を無断でコピー!?

著作権侵害

「参考にする」と「そのまま使う」では大違い。本人に確認または引用元の明記を。

相手に無断で写真を投稿!?

肖像権侵害

写真の投稿は、原則、相手の承諾が必要です。写真の加工も要注意!!

そんなつもりじゃ...

炎上投稿

メッセージを送るときは、誰かを傷つけないか、一度立ち止まって考えることが大切です。

Point



インターネット上で公開された書き込みや個人情報、一度拡散してしまうと完全に削除することが難しくなります。そんなデジタルタトゥーの怖さを体験しながら学び、情報発信の際は相手のことを考えるといった基本的なモラル意識を高めましょう。

フェーズ 1



毎日 アクセス

～端末に触れることを習慣化～

ICT活用推進のポイントは、簡単に始められる取組をルーティン化することです。「心の天気」の登録など、定着しつつある取組をきっかけに、学校の実情にあわせた「1日のルーティン」をつくり、粘り強く、我慢強く進めることが大切です。

「どの学級でも」「どの学年でも」を合言葉に、校内の連携を深め、着実に取組を進めてください！



「心の天気」登録など
1日のルーティンに

健康観察は「心の天気」

「心の天気」を毎日登録することで、子どもたちは自分の心と体の変化に向き合うきっかけとなります。4つの「天気」が表す意味は、学校全体でルールを統一しておくと、声かけの判断に活かされます。複数の教職員が一人一人の入力状況を確認できるといったメリットも。

▶ 自分の心と体に向き合うきっかけに

STEP 1 登校後は「心の天気」の登録を
「まなびのポータル」から
「スクールライフノート(SLN)」を起動



Point
「心の天気」の『ものさし』を
学校全体で統一し、共有しまし
ょう。

* 「心の天気」の『ものさし』 *



特に問題なく元気



特に先生に相談したい
こともないが、元気とい
うわけではない

晴れと曇りは基本的に問題ないというのを全学年で統一



悲しいことがあって
聞いてほしいとき



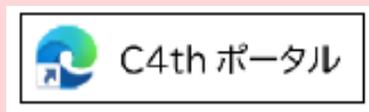
トラブルなどの腹立た
しいことができたので、
先生に聞いてほしい

STEP 2 すきま時間に登録状況を確認

「心の天気」の登録状況を確認し、気になる子どもには声かけします。

「C4thポータル」では、座席表の
形で、「心の天気」を確認できます。

校務系仮想PC



※事前に座席表の登録が必要です



Point
子どもたちは、自分自身の心の変化を可視化することで、メタ認知
能力を高めることができます。毎日の積み重ねを大切にしましょう。

朝学習はデジタルドリル

デジタルドリル『navima』は、小学校1年生から中学校3年生までの5教科(国語、社会、算数・数学、理科、英語)すべてのドリル問題にアクセスできます。自動採点で正誤がすぐにわかるため、自分のペースで学習を進めることができ、自学自習の習慣化に有効です。

自学自習の習慣化に

STEP 1 「心の天気」の登録後は、「navima」を起動

「まなびのポータル」から「navima」を起動します。

※ ID・パスワードの入力は必要ありません。



STEP 2 自分のペースでドリル問題に取り組む

取り組むドリルを提示する方法もありますが、範囲と期日を伝え、子どもたちが自分のペースで取り組めるようにすると、自ら調整して学ぶ力が育ちます。



Point 誤答の場合は、過去の単元や学年の基本的な問題が自動で出されるため、効率よくやり直しができます。

STEP 3 習熟度や取組時間を確認し、声かけを行う



Point 子どもたちの実施状況が把握できる「個人カルテ」は、教員画面から簡単に確認できます。習熟度や取組時間をもとに、声かけを行いましょう。

すきま時間にタイピング練習

タイピング練習アプリケーション『らっこたん』は、ホームポジションを意識しながらタイピングスキルを向上させることができます。速く正確に入力できるよう、すきま時間を活用して練習できる環境をつくりましょう。アウトプットが増加し、学びへの相乗効果が期待できます。

小学生で40字/分、中学生で60字/分

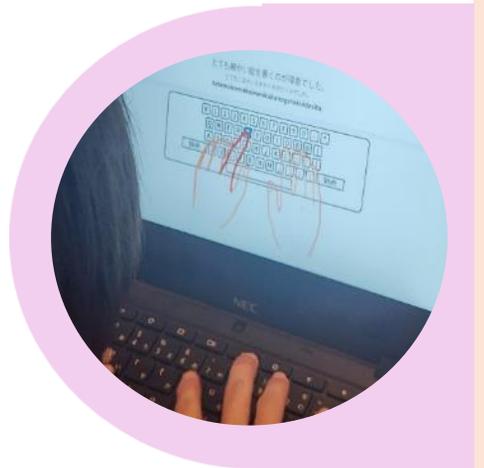
STEP 1 すきま時間に、「らっこたん」を起動

「まなびのポータル」から「らっこたん」を起動します。
※ ID・パスワードの入力は必要ありません。



STEP 2 正しい姿勢で、ホームポジションを意識して

鉛筆の持ち方と同じように、姿勢やホームポジションを意識し、速く正確に入力できるよう練習しましょう。



STEP 3 「実績」を確認し、上達を価値づけ

競い合いながら取り組む環境をつくることで、子どもたちは休み時間でも家庭でも自らタイピング練習に励むようになります。



40字/分を超えると、手書きよりも速くなると言われています。授業で使うワークシート等も、フォームやスライドに置き換え、タイピング練習の成果を実感できるようにしましょう。

連絡帳をデジタル化

TeamsやClassroomを活用すると、学級や教科の連絡もスムーズに行えます。毎日の連絡をチャットやストリームに投稿したり、授業の板書を写真に撮って投稿したりすることで、止むを得ず欠席した子どもたちも、その日の様子を確認することができます。

▶ 連絡帳の代わりに

STEP 1 定型のフォーマットで準備も簡単

コピー＆ペーストで作成も簡単
下書きを準備しておくのもGood



STEP 2 TeamsやClassroomに投稿

総合教育センター ICT推進G
10:48 (最終編集: 11:17)

すきま時間に投稿

11月28日 (月)

手 2枚

持 いつも通り

宿 音読「OO」
リコーダー「OO」※動画を「11.28 リコーダー宿題」に提出

連 なし

11.28 リコーダー宿題
Google ドライブ フォルダ

慣れてきたら、黒板の板書や
スライド資料、「課題」を投稿



- ・ 連絡帳をデジタル化すると、端末の持ち帰りが必須に
- ・ 連絡帳を書く、提出・確認、返却にかかる時間を大幅に削減
- ・ 欠席した子どもがすぐに確認できるメリットも♪

【コラム】「『脱』充電保管庫」

学習者用端末は「令和の時代の文房具」と言われています。学習活動に欠かせない道具として、「いつでもすぐ使えること」と「子どもが自分で大切に管理できること」がどちらも大切です。「よく使うから大事にする」という習慣を身につけさせましょう。

すぐに取り出せる定位置に

学習者用端末は、学習活動に欠かせないアイテムとして「いつでもすぐに使える状態であること」が重要です。「端末は専用バッグに入れておく」など、学級のルールを確認し、いつでもすぐに取り出せるような『定位置』を作りましょう。

家庭での充電を基本に

連絡や家庭学習のために端末を持ち帰る習慣ができると、授業中に電源が切れて使えないことがあるかもしれません。でも、「保管庫で充電中だから使えない」というのも困ります。そこで、考え方を改めて、『家庭で充電する』ことを基本にしてみましょう。



Point

・授業中に電源が切れたときは？

各学級で予備の充電アダプタ※を活用しましょう。

※令和2年度当時、最も在籍数が多い1学年の児童生徒数分の充電アダプタを配備済みです

・アップデート時に充電保管庫に戻す必要がある？

保管庫から出た状態のままでも、学習活動に影響ない範囲で、少しずつアップデートを行っています。充電保管庫に戻す必要はありません！

フェーズ 2



1日1回 授業で活用

～授業の一部をICTで代替～

本時のねらいの共有、話し合い活動や授業の振り返りなど、毎日の授業で必ず取り入れている学習活動の一部をICTで代替することから始めましょう。

プリントや説明スライドのデータをTeamsやClassroomで共有するなど、すでにあるものを有効活用しましょう。「慣れ」や「継続」が今後の活用推進のポイントになります。



授業をする全教員が
フェーズ2クリアを目標に

導入は振り返りシートから

振り返りシートをクラウド共有すると、学級全員の気づきを相互に参照することができます。次の時間につながる気づきや発展的な問いを着目できるようにするなど、適宜価値づけることで、学びのサイクルが加速し、学習が充実するきっかけとなります。

クラウド環境でみんなの気づきを共有

STEP 1 1人1枚のシートを作成

単元計画をもとに、振り返りシートを作成します。
学級の人数分シートを複製し、1人1枚のシートを作成します。

STEP 2 1枚のシートに共有

リンクをつけて1枚のシートで一覧化。
疑問に思ったことや、さらに考えてみたいことを共有します。



前時に入力された子どもたちの気づきや、発展的な問いが本時の課題に!

STEP 3 チームやクラスで共有

個別最適
本時の目標や適用問題を確認

自己調整
セル上で右クリック⇒「プルダウン」で自己評価を視覚化

他者参照
一人一人の「ふりかえり」は、「みんなのふりかえり」シートにリアルタイムで反映

シートを学級の人数分複製し、出席番号のシートを使用

時数	教科書	学習目標	学び方	教科書	算下	ふりかえり	自分の評価
1	6.6~6.7	ストーリーでいろんなしゅるいの三角形を作る。	グ			いろいろな形の三角形ができた。	自分の評価
2	6.7~6.9	三角形のなかま分けができる。	み	6.9△1	33		
3	7.0	二等辺三角形を作図できる。	み	7.0△2	34①②		
4	7.1	正三角形を作図できる。折り紙で三角形を作る。		7.1△3 1.1.5②	34③		
5	7.2	円を使って三角形を作図できる。	み	7.2△4	34④		
6	7.4~7.5	角についてわかる	み	7.5△1 1.1.5④	35		

見通しを動画教材で

家庭学習や授業の導入時に、これから学ぶ内容の動画を見ることで、問題解決の見通しを持つことができます。動画はクラウド上に共有しておくことで、子どもたちが個々のタイミングで、見たい部分を何度でも繰り返し見ることができます。

▶ 動画をヒントに問題解決の見通しを

STEP 1 「NHK for School」にアクセス
「まなびのポータル」から「NHK for School」を起動

NHK
for
School

STEP 2 キーワード検索して動画のURLをコピー

キーワードを入力して検索すると関連する動画が表示されます。「くわしく探す」を押すと、教科や学年、動画の種類を設定して検索ができます。

キーワードを入れてね

くわしく探す

教科: すべて

Point

ほとんどの動画が
5~10分です。



STEP 3 コピーしたURLをTeamsやClassroomに投稿

Point

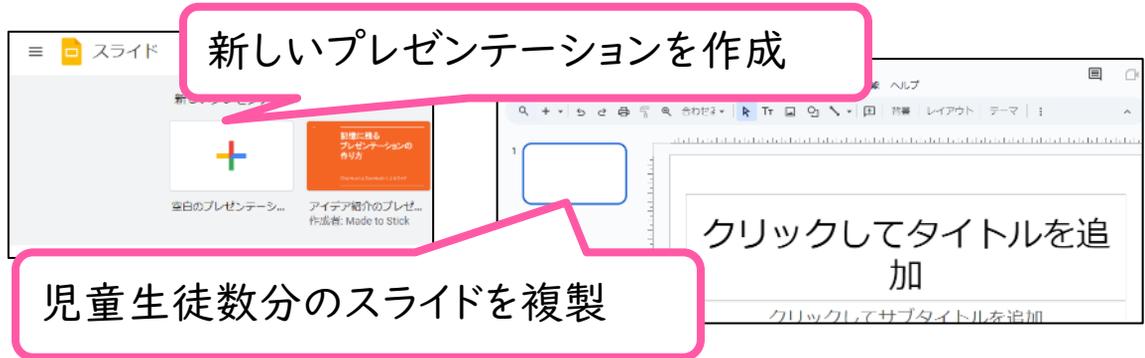
複数の動画をまとめた「プレイリスト」を活用すれば、動画をまとめて視聴しやすくすることができます。良質なコンテンツを有効活用し、子ども自身が自己調整しながら学びに向かう経験を増やしましょう。

自分の考えをスライドに

PowerPointや Google スライド™ で作成したワークシートをクラウド上で共有します。子どもたちは自分の出席番号のスライドをワークシートとして活用することで、互いの進捗状況や解決方法をリアルタイムに参照しながら学びを進めることができます。

▶ スライドをデジタルワークシートとして

STEP 1 PowerPointやGoogleスライドを起動し、スライドを作成する



STEP 2 TeamsやGoogle Classroomに投稿



アクセス権限を付与

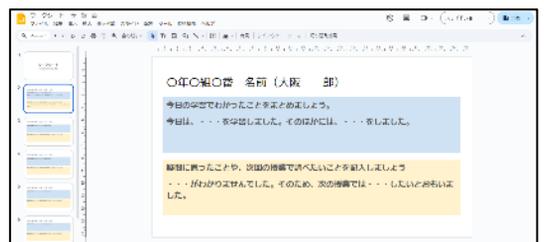
- ① 「一般的なアクセス」は「大阪市教育委員会」を選択する。
- ② 「役割」を「閲覧者」から「編集者」へ変更する。
- ③ リンクのコピーをクリックして、TeamsやGoogle Classroomに投稿する。

STEP 3 自分の出席番号のスライドを編集



Point

解決に戸惑っている子どもも、友だちのスライドを参考にすることができます。

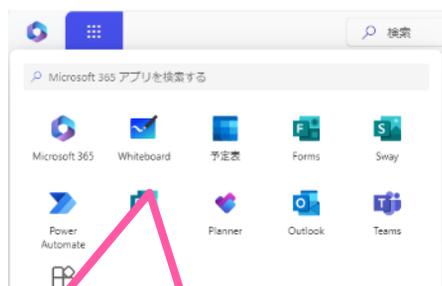


話し合いはホワイトボードで

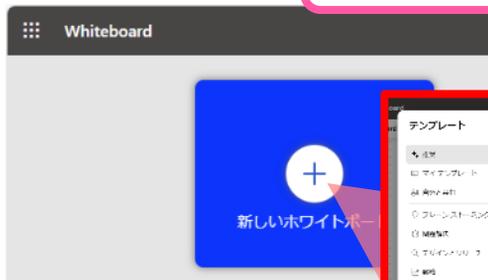
ホワイトボードは、同じボード上に複数で同時に入力するといった共同編集が可能です。付箋や手書き、画像やリンクを共有することも簡単です。思考ツールも充実しているので、様々な場面で活用することで、子どもたち自ら思考ツールを選択できるようにしましょう。

▶ 共同編集機能で話し合いが充実

STEP 1 M365からWhiteboardを選択



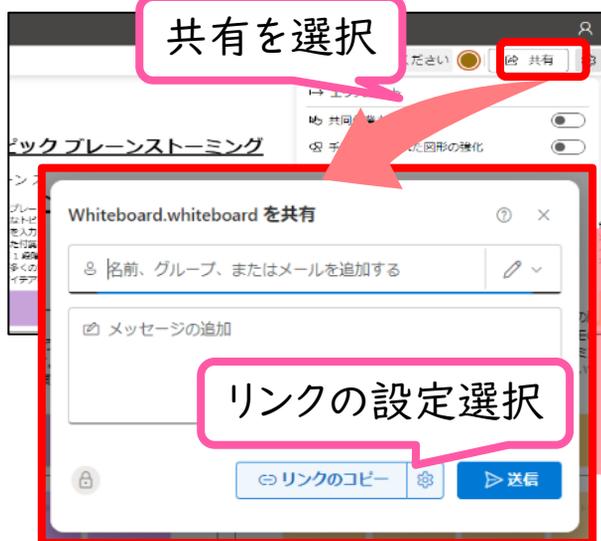
Whiteboardを選択



テンプレートを選択



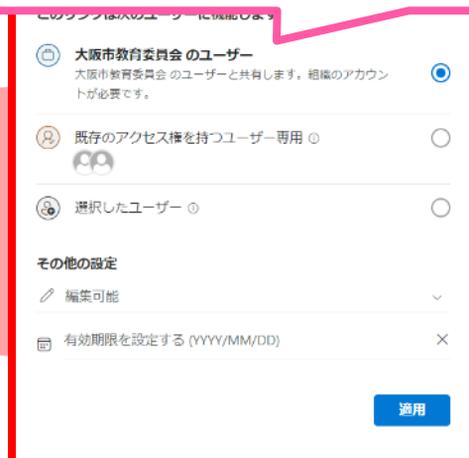
STEP 2 「リンクをコピー」したら、TeamsやGoogle Classroomに投稿



共有を選択

リンクの設定選択

「大阪市教育委員会のユーザー」を選択し、適用



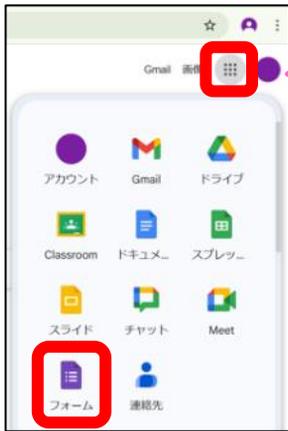
STEP 3 様々な場面で活用

振り返りはフォームへ

授業の振り返りをFormsやGoogle フォームといったオンラインアンケートで実施してみましょう。回収、分析の効率を上げるだけでなく、本時の内容に焦点化した質問に回答できるようにすることで、核心的な気づきや発展的な問いを生むきっかけとなります。

▶ オンラインアンケートで焦点化した振り返りを

STEP 1 Formsやフォームでアンケートを作成し、投稿



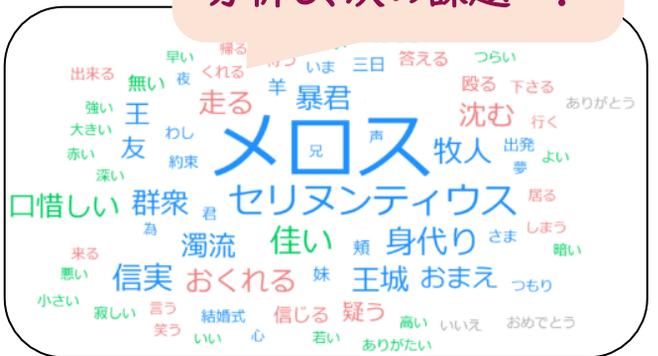
「9点リーダー」をクリックして、「フォーム」をクリック

- ① 「空白のフォーム」をクリック
- ② 「アンケート項目」を入力
- ③ 「アンケートを送信」

Point
テキストマイニングで、子どもたちの思考を分析し、次の課題へ!

STEP 2 アンケート結果を全体共有 「回答」をクリックし、集計結果を確認します。

回答方法により
記述式⇒ワードクラウド
選択式⇒棒グラフや円グラフ
で概要が表示されます。



STEP 3 振り返りシートとして保存

「回答」から「スプレッドシートへリンク」を押すことで、回答一覧の表が作成されます。



【コラム】デジタルポートフォリオの蓄積

フォルダの整理をせずにアップロードを続けると、大切なデータがどこにあるか分からなくなってしまいます。誰でもすぐに保存場所がわかるようにルールを定め、子どもたちがデータを整理する力を身に着けられるよう指導しましょう。



- ▼ メインチャンネル
- 一般
- ★連絡帳
- 01_国語
- 02_社会
- 03_算数

チャンネルやフォルダを上手く活用しましょう。チャンネルは教科ごと、フォルダは単元ごとに作成し、それぞれ構成を統一すると使いやすくなります。

02_社会 > 01_わたしたちの国土 > 01_世界の中の国土

名前	更新日時
01_デジタル資料集（世界の中の国土）	数秒前
01_ワークシート（世界の中の国土）	数秒前
01_まとめ（世界の中の国土）.pptx	3分前
01_学習計画と振り返り（世界の中の国土...）	約1分前



classroom > R06 2-2

ストリーム 授業 メンバー 採点

ここぞ

- ろくおんれんしゅ
- としまはっぴよう
- 本のはっぴよう
- かんじがわからな
- 2がっき こん
- ★2がっき こん

トピックを上手く活用し、参照する資料やコンテンツをまとめましょう。

絵を見てお話をかこう

最終編集: 10月1日

期限なし

ろくおん <https://www.petitmonte.com/labo/voice-recording/>

0

提出済み

34

割り当て済み

投稿

絵を見てお話を書こう
Google スライド



スライドに音声を入れる...
動画

2-2絵を見てお話を書こ...

手順を表示



クラウド上の活動は、意図的な記録も簡単です。
子どもたちの振り返りや形成的な評価に活かしましょう。



あらゆる 授業で活用

～ICTを基盤とした授業改善～

フェーズ2をクリアすると、学習活動の様々な場面でデジタルならではの“よさ”を実感してきたのではないのでしょうか？ ICTは、気がつけば「なくてはならないもの」となり、取組が一気に加速します。

情報活用能力が土台となって、あらゆる学習活動のサイクルが加速するとともにその質も高まるイメージを持ち、さらなる加速に向けて、様々なアプリケーションの活用にもチャレンジしましょう。



情報活用能力が土台となり、
学びのサイクルが加速

リアルタイムに友だちの考えを確認

Formsやフォームと対応したExcelやGoogle スプレッドシート™のURLを共有しておく、クラス全員の回答状況を確認することができます。多くの情報を比較して共通点や相違点を見出すことは、情報活用能力を育むうえでも、非常に大きな効果を発揮します。

▶ 回答を瞬時に共有

STEP 1 Formsやフォームといったアンケートと、回答結果が一覧化されるExcelやスプレッドシートの両方を同時に投稿



①Formsの「回答」から Excelを表示

②Excel上の「共有」から 「リンクをコピー」を選択

※必要に応じて「設定」から共有範囲を変更

STEP 2 まずは一人で考えて回答する



まずはじっくりと自分の考えをまとめましょう。送信できたら、みんなの考えを確認しましょう。



Point 送信後も再回答ができる設定にしておく、友だちの回答を参考に推敲することができます。

STEP 3 みんなの回答を確認し、自分の考えをさらに深める！

開始時刻	完了時刻	名前	今日学んだことや考えたことを書きましょう。
#####	#####	anor 山田 太郎	堺の包丁づくりは、多くの職人に支えられていることが分かった。地域のお祭りで包丁を宣伝することが、売り上げ回復につながったと知った。
#####	#####	anor 鈴木 花子	包丁が外国人のお土産として人気だとは、知らなかった。日本の文化は、いいものがたくさんあるんだと考えた。
#####	#####	anor 木村 大輔	

答える度に
リアルタイム
に回答が追加



鈴木さんの考え、なるほどな。私も次、お祭りのこと調べてみよう。

コメント機能で意見交換

「コメント」機能を使うことで、意見交流や情報共有が“いつでもどこでも”簡単にできます。リアクションや@（メンション）を活用し、効率的にメッセージを送ることもできます。授業時間内に全員が発言することは難しくても、端末上で様々な交流が可能です。

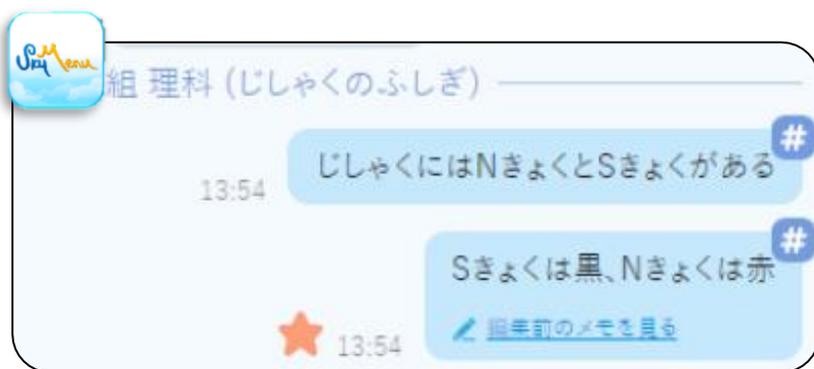
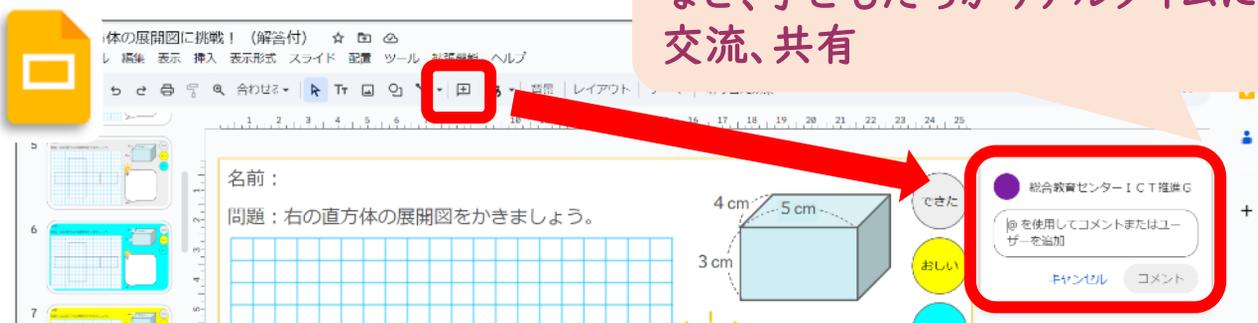
▶ コメント機能で対話を促進

STEP 1 スライドをTeamsやGoogle Classroomに投稿



STEP 2 「コメント」機能で意見交流

Point
気づいたこと、疑問に思ったことなど、子どもたちがリアルタイムに交流、共有



Point
コメントに直接参加しなくても、友だちのコメントから自分に役立つ情報を見つけて、使えることが大切です。

デジタル教材を子どもに共有

自力解決の際に使用したコンテンツをスクリーンショットし、ホワイトボードに貼り付けるだけで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながります。さらに付箋機能等を活用し、個々の気づきを共有しながら深い学びにつなげましょう。

▶ デジタル教科書のコンテンツを有効活用

STEP 1 学習コンテンツのURLをホワイトボードに添付

デジタルコンテンツ

p.105-△1
ww5.tsho.jp

個別最適な
学び

STEP 2 コンテンツで作成した考えをスクリーンショット

STEP 3 ホワイトボードに添付し、協働的な学びへ!

ホワイトボード

立方体の展開図は何種類?

p.105-△1
ww5.tsho.jp

同じ? →

一体的な充実

協働的な
学び

Point
気づいたことは、付箋やテキストボックスでリアルタイムに共有することで、深い学びのヒントに

ニーズに応じて、言語に翻訳

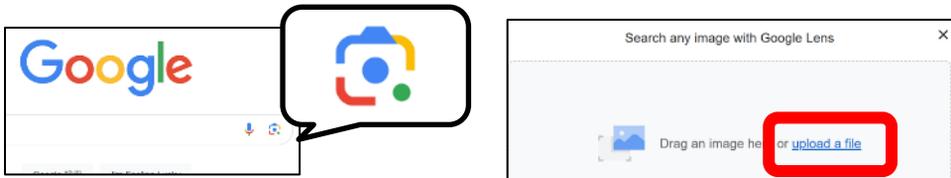
Google レンズ™ やPowerPointは、様々な言語に翻訳する機能があります。教科書を翻訳したり、指導者の発問を字幕表示したりと子どもたちが必要に応じて、活用できるようにしましょう。音声の文字化は外国籍の子どもだけでなく、様々な子どもたちに有効です。

▶ 個別最適に多言語翻訳

教科書を翻訳 (Google レンズ)



STEP 1 Google 検索の  からGoogle レンズを起動



STEP 2 スクリーンショットや撮影した写真等をドラッグ&ドロップ

STEP 3 アップロード後、「翻訳」モードにして、翻訳したい言語を選択



発問を字幕表示 (Web版 PowerPoint)

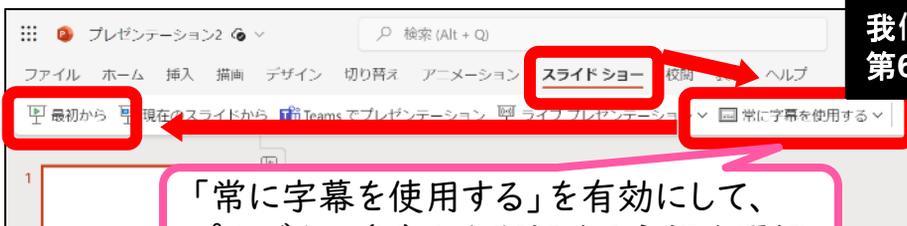


STEP 1 M365からPowerPointを起動

STEP 2 スライドショー⇒ 常に字幕を表示する ⇒ スライドショーの開始



教科書の62頁を開きましょう。



我们把课本翻到第62页



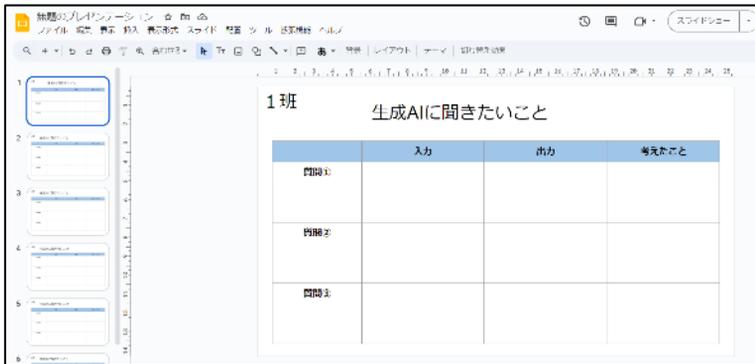
「常に字幕を使用する」を有効にして、プルダウン(V)から翻訳する言語を選択

生成AIのアイデアを活用

指導者が代理入力をするだけで、小学校でも授業で活用することができます。出てきた結果をTeamsやClassroomの投稿で共有することで、子どもたちは新たな視点を獲得し考えを深めることができます。博識な第3者としてのAIを有効活用できるようにしましょう。

▶ 最先端のテクノロジーを活用

STEP 1 生成AIに聞きたいことを、スライドの表に入力する。



Point
表形式で入力、出力の欄を分けることで、コピー＆ペーストを素早く簡単に

STEP 2 生成AI (CopilotやChatGPT) に代理入力。



STEP 3 スライドの出力欄に転記し、子どもたちに共有。



Point
対象年齢や考えたい視点等、はじめは指導者がプロンプトを丁寧に入力することで、期待する回答を得ることができます。回数を重ねるうちに子どもたちが自分でプロンプトを入力できるようにしましょう。

【コラム】児童会、生徒会や部活動でも活用

端末が子どもたちの日常に文房具として溶け込むと、様々な場面で子どもたち主体の活用が始まります。特に児童会や生徒会、部活動等、子どもたちが中心となって活躍する場面では、驚くようなアイデアも続々。端末活用で子どもたちのひらめきを加速させましょう。

■アンケート

全校児童生徒へのアンケート、意見箱・生徒会役員選挙の投票など



■交流・共有

小中交流会・他校や地域との交流、活動計画や学校行事の役割分担の共有など



■報告・発表

クラブ紹介、学習発表会、こども市会、スマホサミット、文化発表会、学校紹介など様々な学校行事など



■実践記録

練習・試合の記録、データ分析、コンクール・発表会の記録など



■連絡手段

活動計画、月次予定の共有、変更の連絡、欠席・遅刻の連絡など



■振り返り

会議議事録、部活動日誌、出欠席の記録、活動報告、部活ノートなど



取組をデジタルデータとして記録することで、現在のメンバーと共有するだけでなく、次の世代への引継ぎもスムーズに行うことができます。

【コラム】あらゆる授業で活用～ICTを基盤とした授業改善～

ICTが学習活動の基盤になると、子どもたち一人一人の気づきや発見、考えがリアルタイムに共有され、互いのアイデアが相乗効果となって、日常の学びが加速します。子どもたちの気づきを価値づけ、日常的に、意識的に学びのサイクルを回しましょう。

課題の設定

児童生徒の振り返りや気づきをもとに、課題を設定しましょう。



Point



前時の振り返りをもとに本時の課題を設定するなど、学びのサイクルを意識しましょう。

情報の収集

児童生徒が情報（考えや意見も含む）を収集し、課題解決の見通しを持てるようにしましょう。



整理・分析

児童生徒が、情報（考えや意見も含む）を整理・分析し、考えを形成できるようにしましょう。



まとめ・表現

児童生徒が、自分の考えをまとめ、表現すると同時に相互評価できるようにしましょう。



振り返り

児童生徒が、学習内容を振り返り、統合的・発展的に考察することで、次時の課題につなげましょう。



Point



これまでの実践とICTとを組み合わせ、デジタルの力でリアルな学びを支えましょう。

おわりに

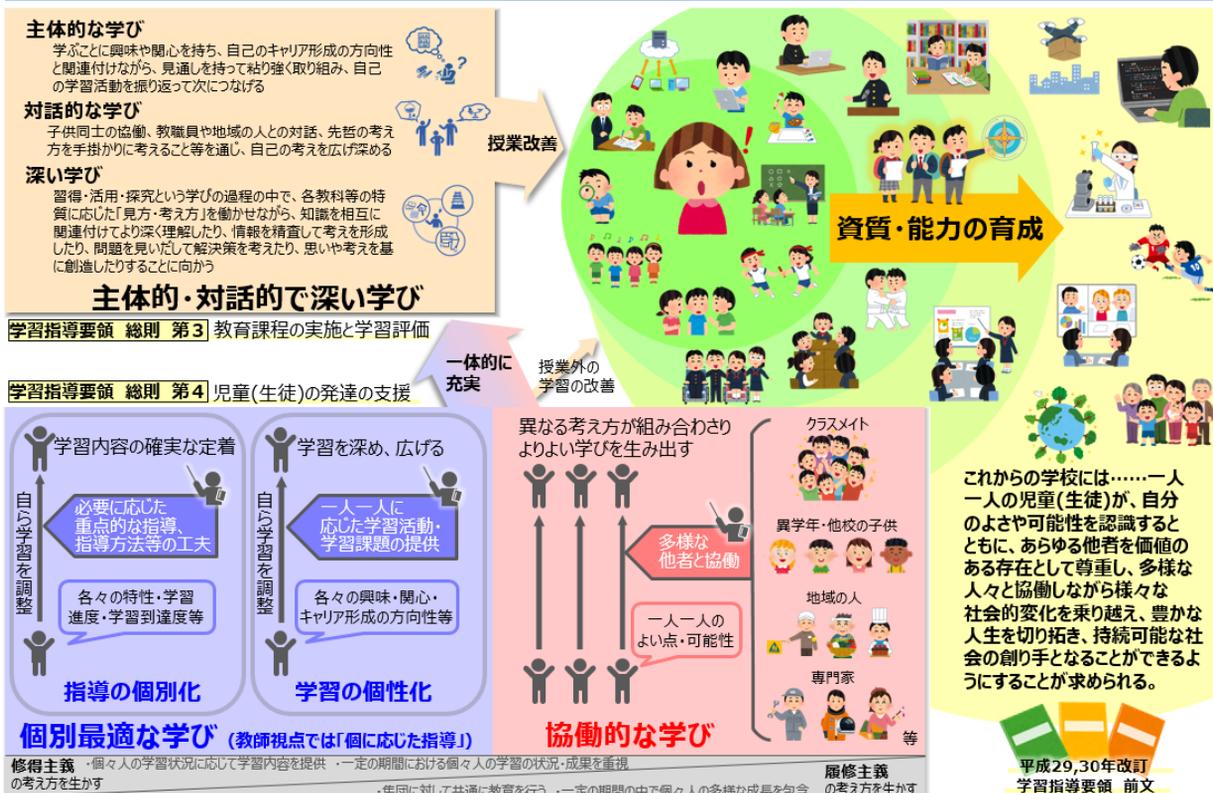
教職員の皆さま

平素より、本市の学校教育にご尽力いただき、誠にありがとうございます。皆さまの熱心な取組により、ICT活用が着実に進展していることに心より感謝申し上げます。

学習指導要領では、言語能力、問題発見・解決能力等と並んで、「情報活用能力」が学習の基盤となる資質・能力と位置づけられており、情報技術を学習や日常生活に活用できるようにすることの重要性が強調されています。

また、学習指導要領において示された資質・能力の育成を着実に進めるためには、新たに学校における基盤的なツールとなるICTを最大限活用しながら、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かすことが求められています。

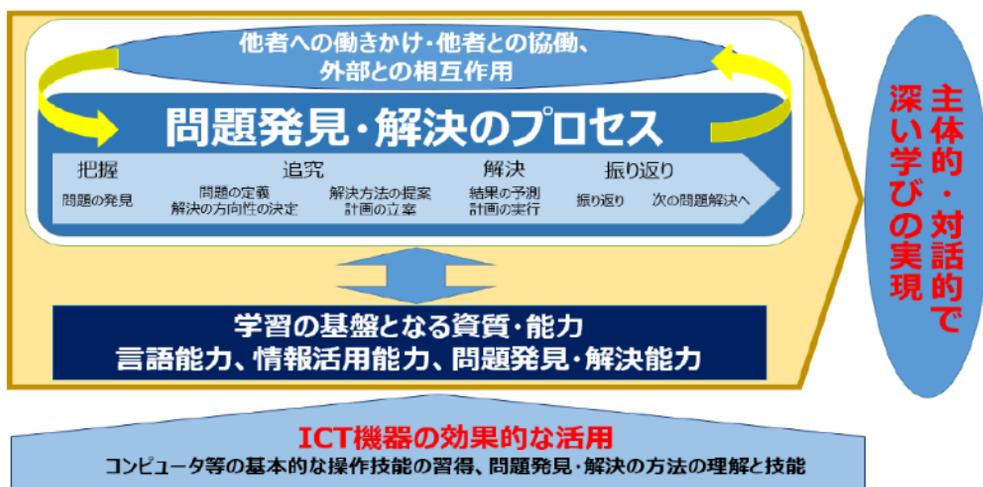
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（イメージ）



文部科学省「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」

※本資料は、「教育課程部会における審議のまとめ」（令和3年1月25日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会）に基づき、概念を簡略化し図等として整理したものである。

大阪市学校教育ICTビジョン（令和4年3月改訂）では、めざす子ども像として、「ICT機器を活用しながら知識の理解の質をさらに高めるために、学習者用端末等を効果的に活用することにより、協働学習や個別学習の充実を図り、主体的に学び、自らの考えを伝えるとともに、他者の考えを理解し、多様な人々と協働して問題を解決しようとする子ども」を示しており、問題発見・解決学習のプロセスとして、問題発見・気づきの場面、見通しを持ち考える（自らの考えを持つ、他者と協働し学びを深める）場面、学習のまとめ・次への探求の場面、学習確認の場面などの学習過程を整理し、各教科等の特質に応じて適切な学習場面でICTを効果的に活用した学習を実施することが求められています。



大阪市教育委員会事務局「大阪市学校教育ICTビジョン」

子どもたちの育成に関わるすべての教職員の皆さまが一丸となり、社会の変化が激しく、複雑で予測困難な未来を生きる子どもたちにとって必要不可欠な「情報活用能力」の育成をはじめ、学習指導要領に基づいた児童生徒の資質・能力の育成に向け、学習者用端末とクラウド環境の十全な活用を推進するとともに、ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める必要があります。

カリキュラム・マネジメントを充実させ、各教科等で育成をめざす資質・能力等を把握した上で、ICTを「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かすとともに、従来は伸ばせなかった資質・能力の育成や、これまでできなかった学習活動の実施、家庭等学校外での学びの充実が求められています。学習者用端末の活用を「当たり前」のこととし、児童生徒自身がICTを自由な発想で活用するための環境整備、授業デザインを構築してください。

ICTを活用した校務改善を働き方改革につなげるとともに、授業における協働学習支援ツールの活用や、「心の天気」を活用した児童生徒の心や体調の変化の早期発見など、令和の時代の文房具である学習者用端末とクラウド環境を毎日高い頻度で活用し、あらゆる教育活動の基盤としてICT活用を進めていただくようお願いします。

大阪市総合教育センター
教育振興担当 ICT推進グループ

